

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒 475-0966 愛知県半田市岩滑西町 1-10-1 TEL0569(26)4888 <http://www.nankichi.gr.jp>

ペラルーシ語になった南吉童話

ペラルーシ共和国の首都ミンスクにある日本文化情報センターで、昨年、新美南吉生誕百年を記念して南吉の生涯とその作品を紹介する特別展が開催され、それに合わせて南吉の童話がペラルーシ語に翻訳されました。



▶ ペラルーシで南吉や南吉作品について掲載された本や雑誌

ペラルーシは東ヨーロッパに位置し、ロシアやポーランドなどと国境を接しており、標準語はロシア語とペラルーシ語。日本からは飛行機を乗り継いで十二時間近くかかる遠い国です。そのペラルーシの首都ミンスクに日本文化情報センターがあります。センターの代表は京都出身の辰巳雅子さんで

日本の絵本や児童文学の紹介にも力を入れています。昨年は、新美南吉生誕百年を記念して、同センターで南吉と彼の南吉作品を紹介する特別展を開催されることになりました。しかしロシア語に翻訳されている作品は「手袋を買いに」のみ、ペラルーシ語は一作もない状態だったため、辰巳さんは自分たちで翻訳され

が児童図書館内にあることから、

することに。選んだのは「ごんぎつね」「でんでんむしのかなしみ」など四作品でした。宗教や文化、社会問題などの理由でペラルーシの人たちには読んでもらえそうにない作品もあり慎重に選ばれたとか。実際に翻訳したのは長女の結重さん(左下写真)でした。小学生ながらペラルーシ生まれの娘さんはロシア語とペラルーシ語ともに堪能で、結重さんが訳したものに辰巳さんや辰巳さんの同僚らが手を入れて完成させました。翻訳されたものはセンターで開催した特別展で紹介されたほか、南吉の誕生日である七月三十日に、センターがある児童図書館で行われた朗読会や、市内の幼稚園や学校、他市の中央図書館などでも披露されました。集まった人の評価は高く「童話として子ども向き」と思っていたが、実際に違っていた

す。学生時代にロシア語を学ばれ、卒業後にペラルーシ大学に留学、その後ペラルーシで就職、結婚されたのを機に永住されました。センターを開設して十五年。主な役割はペラルーシの人たちに日本文化を紹介することですが、センターが児童図書館内にあることから、日本の絵本や児童文学の紹介にも力を入れています。昨年は、新美南吉生誕百年を記念して、同センターで南吉と彼の南吉作品を紹介する特別展を開催されることになりました。しかしロシア語に翻訳されている作品は「手袋を買いに」のみ、ペラルーシ語は一作もない状態だったため、辰巳さんは自分たちで翻訳され



驚いた」という感想が聞かれたそうです。「ごんぎつね」は、兵十のウナギを逃がしてしまい、その結果兵十のおつ母を死なせてしまったごんの償いの話として読まれ、キリスト教的贖罪の話として捉える人が多いそうです。「でんでんむしのかなしみ」も哲学的な作品と感じられるようです。南吉作品には、宗教や文化が違って人の心に届くものがあると思う、という辰巳さん。今後も南吉作品の翻訳を続け、ペラルーシ各地へ届けたいと考えているそうです。
*詳しくは『新美南吉記念館研究紀要』第20号(三月末発行/一部八百円)所収「ペラルーシ語とロシア語になった南吉童話」(辰巳雅子)をご覧ください。

南吉とわたし 15 演出家 奥村拓



僕は演出家として『新美南吉の日記 1931-1935』という作品に携わりました。新美南吉の日記や作品を元にした演劇です。二〇一二年に東京で初演し、昨年は東京、福岡、愛知で上演しました。愛知県では半田市の亀崎町にある来教寺というお寺で上演させて頂きました。

「新美南吉に関する作品を上演したい」と思ったのは五年ほど前。子どもどきとき読んで「手袋を買いに」や「ごん狐」をあらためて読んで、とてもおもしろかったからです。

作品を読んでいくうちに「去りゆく人に」という詩に出会いました。「おまえとふたりで建てた、／丘の上のふたりの家を壊してしまおう。」という一節で始まります。「ひっこぬいて捨ててしまおう」「燃してしまおう」など、荒々しい言葉を使っていますが、作品全体を包んでいる空気は優しく、静謐です。これを読んで僕は心をうたれました。自分を傷つけた人に向けた言葉で、自分自身を傷つけているかのような印象を受けました。この詩を読んだことが「新美南吉ってどんな人だったのだろう」と、関心を持つきっかけだった気がします。

青年期に書かれた日記は「童話作家」という優しいイメージからは少し離れています。自尊心が強く、人を見下すような記述がたくさんあります。例えばある日、友人の西田が受験に落ちたことを聞いた南吉は彼をひどく馬鹿にします。しかしそのあとに「自分は、ばかな事を云ってしまったものだと思つた。自分より弱いものをなぐつたあとの、あのさ

みさであつたんだ。」と記しています。他人を卑しめる言葉を書くことで、その言葉を書いている自分自身を卑しめているかのような、ある種の自虐的なサイクルは「去りゆく人に」と似ているような気がします。新美南吉のことについてもっと知りたい、という気持ちで彼の日記を演劇にした動機の一つだと思います。

上演台本を構成する過程で、心配だったのは、日記の文面をお客さんがそのまま受けると偏屈で意地悪な人だと思われてしまうかも、ということでした。僕は新美南吉の作品も日記も大好きなので、『新美南吉の日記』を観に来てくれるお客さんに彼を好きになつてほしいと思っていました。ですから、当時の南吉の恋人M子を語り手とすることにしました。新美南吉の優しいところも偏屈なところも含めて、愛していた人だろうと思つたからです。

新美南吉が二十二歳のとき、M子との別れが訪れます。僕はただのバッドエンドにも事実とは反するハッピーエンドにもしたくありませんでした。だから「優しいバッドエンド」にも見えるように「悲しいハッピーエンド」にも見えるように演出をしました。思えば「ごん狐」も、ごんの視点から見ればハッピーエンドなのです。

南吉の残した作品や日記を通して彼の声に耳を澄ませ、俳優たちと作品をつくり、お客さんに作品を観て頂けて、とても楽しかったです。またいつか上演ができればいいなと思つています。



執筆者プロフィール 1980年、福井県生まれ。俳優・演出家。早稲田大学第一文学部卒。2010年、オクムラ宅活動開始。誤読と拡大解釈、俳優への信頼を武器に「紙風船」「かもめ」を演出。テキストの変更を行うことなく、近代戯曲を現代人に親しみやすいものに

する斬新な演出には定評がある。2011年、利賀演劇人コンクール2011で「紙風船」を上演。2012年『まばたき』でAAF戯曲賞最終候補。2013年『新美南吉の日記 1931-1935』を福岡、愛知、東京で上演。



▲ 平成25年10月に半田市亀崎町の来教寺で行われた公演

「出前授業」を始めて六年 子どもたちから届いた声

新美南吉記念館では、半田市内の全小学校十三校をめぐり「出前授業」を行っています。出前授業を受けた子どもたちから手紙が届きました。



せながら南吉の生涯を紹介し、その後「ごんぎつね」に登場するはりきり網や葬式の鉦などの道具に実際に触れて音や重さを感じてもらいます（上写真）。子どもたちもいつもと違う授業に興味津々です。そんな出前授業を受けた半田市立半田小学校の子どもたちから届いた手紙の一部をご紹介します。

南

吉の代表作「ごんぎつね」は、小学校四年生の全ての国語教科書に掲載されており、子どもたちは二期に学習します。出前授業は「ごんぎつね」の学習時期に合わせてこちらから学校に出向き、小学四年生を対象に南吉や「ごんぎつね」についての授業を行うというものです。平成二十年にスタートしました。

「南吉記念館のまわりには、ごんげん山、中山、兵十が魚をとっていた矢かち川など南吉さんの作品にでてくる物ばかりでびつくりしました。私は南吉さんが生まれた半田で育つ事ができるのをほこりに思っています。」
「私とちがうなと思ったのが（南吉が）昭和十七年に今までで一番たくさんの詩や童話などを書いていくことです。私だったらさっかく少し病が良くなったんだから休んでから童話など

を書くのに、南吉さんは『もうすぐ死んでしまう。だからたくさんの物を書きこそう。』と強く思い、休まず童話や詩を書いていました。私はそんな南吉さんに感動しました。」
記念館では南吉の生涯や作

記念館からのお知らせ

新美南吉読書会

これまで「新美南吉研究会」として南吉作品を読み合う会を行ってきました。

四月からは「新美南吉読書会」と改称して再スタートします。南吉文学に興味がある方ならどなたでも入会できます。

●今年度の予定

- 4月27日(日) 「木の祭」／「赤い蠟燭」
- 5月25日(日) 「鞠」
- 6月22日(日) 「川」へA
- 7月 お休み
- 8月24日(日) 「帰郷」
- 9月 お休み
- 10月26日(日) 「空気がポンプ」
- 11月23日(日) 「最後の胡弓弾き」
- 12月21日(日) 「花を埋める」

品について伝えることで、南吉を身近に感じ彼の作品に多くふれてもらいたいと考え、出前授業を行って来ましたが、子どもたちにもこうしたい思いが届いていることを感じます。今後も継続して行っていきたくと考えています。

新美南吉生誕百年

メモリアル展

平成25年の新美南吉生誕百年を記念の品とパネルで振り返ります。

日時 3月21日(祝・金)
6月29日(日)
場所 記念館常設展示室

うたとお話の会

毎月第4日曜日の午後、図書室でうたとお話の会を行っています。

場所 記念館図書室
時間 13時30分～14時
出演 左近治樹さん
小野敬子さんほか

展示室ガイド

ガイドボランティアが常設展示室をご案内します。

実施日 毎週土、日曜日、祝日、振替休日
ガイドが待機している時間
午前 10時30分～12時30分
午後 13時30分～15時30分

※申込みは不要。ガイドできない日もあります。

以上の事業・行事へのお問い合わせ、お申込みは新美南吉記念館まで。

TEL 0569(26)4888

「新美南吉装丁展」
現在、絵本作家や装丁家として活躍しているイラストレーターとデザイナーが制作した南吉童話10作品の挿絵・装画などを展示しています。

会期 3月16日(日)まで
場所 記念館常設展示室
参加クリエイター
舟崎克彦、丸尾靖子、山崎杉夫、山本祐司ほか
共催 半田観光協会
企画協力 ギャラリーまある／山影麻奈

新美南吉没後71年 命日行事開催

3月22日は南吉の命日です。今年没後71年を迎える南吉の命日を中心に、彼を偲ぶ行事を行います。ほかにも、あおぞら図書館、各種ワークショップ(500円〜)などが行われます。
(期間) 3月21日(祝)〜23日(日) / 場所 新美南吉記念館

3月22日(土)

「南吉を偲ぶ会」

常福院―八幡社―生家―半田口駅(解散)
対象 どなたでも(小学生以下は保護者同伴)
定員 各回30名
参加費 無料
申込み 記念館まで電話
でお申込みください。

「命日ウォーク」

ガイドボランティアの案内で南吉ゆかりの地を歩きます。墓参り、記念館の見学もできます。
*移動はバスと徒歩です(徒歩移動は約2km)。

集合・解散場所

集合／名鉄知多半田駅
解散／名鉄半田口駅

集合・解散時間

①集合9時45分／
解散14時30分(予定)
②集合12時45分／
解散17時(予定)
行程 南吉の墓―南吉記念館―岩滑小―光蓮寺―

時間 13時40分〜14時10分

3月23日(日)

「歌とお話の会」

時間 13時30分〜14時
出演 左近治樹さん
小野敬子さんほか

みんなで議論

「南吉さん!それでもいいの?」

「問題あり?」の「鳥右エ門 諸国をめぐる」を読む
予め作品を読み、講師による作品解説を交えながら、みんなで作品に込められた思いを探ります。

時間 14時〜16時

対象 高校生以上

定員 30名(申込み順)

講師 当館学芸員

受講料 100円

申込み 記念館まで電話

でお申込みください。

*申込みされた方には事前
にテキストを送ります。

※詳しい情報は当館ホームページを
ご覧ください。

問い合わせ／申込み先

新美南吉記念館

TEL 0569(26) 4888

協力／半田市観光協会

日誌抄:

平成25年12月(師走)

▽2日 収蔵品保護のための燻蒸▽7、8日 「えと人形をぬろう」開催。於記念館工作室。81名参加▽11日 中日新聞に企画展「でんでんむしのかなしみ」原画展」が取りあげられる▽14日 第25回新美南吉童話賞表彰式。於記念館会議室▽同日 安城高等学校で「寓話」 詩碑の除幕式▽同日 東京新聞に南吉関連の記事が掲載される▽15日 第114回新美南吉研究会開催。於記念館会議室。11名参加▽19日 信濃毎日新聞に南吉関連の記事が掲載される▽21日 南吉生誕百年フィナーレ開催。於半田市立岩滑小学校、新美南吉記念館。延1800名参加

加▽28日 朝日新聞知多版「取材ノートから」で南吉が取りあげられる▽29日 中日新聞「ニュースを問う」で南吉が取りあげられる

平成二十六年一月(睦月)▽26日 第115回新美南吉研究会。於記念館会議室。12名参加▽同日 毎日新聞「新・心のサプリ」に「でんでんむしのかなしみ」が取りあげられる▽29日 半田市立宮池小学校で出前授業

〈3月の休館日〉
3日(月)、10日(月)
11日(火)、17日(月)
24日(月)、31日(月)
〈4月の休館日〉
7日(月)、8日(火)
14日(月)、21日(月)
28日(月)



ペーパーアート「ひとつの火」
榎原澄香作